

觀光讀本



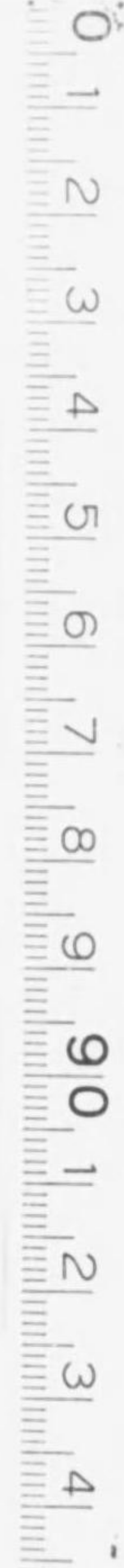
奉天

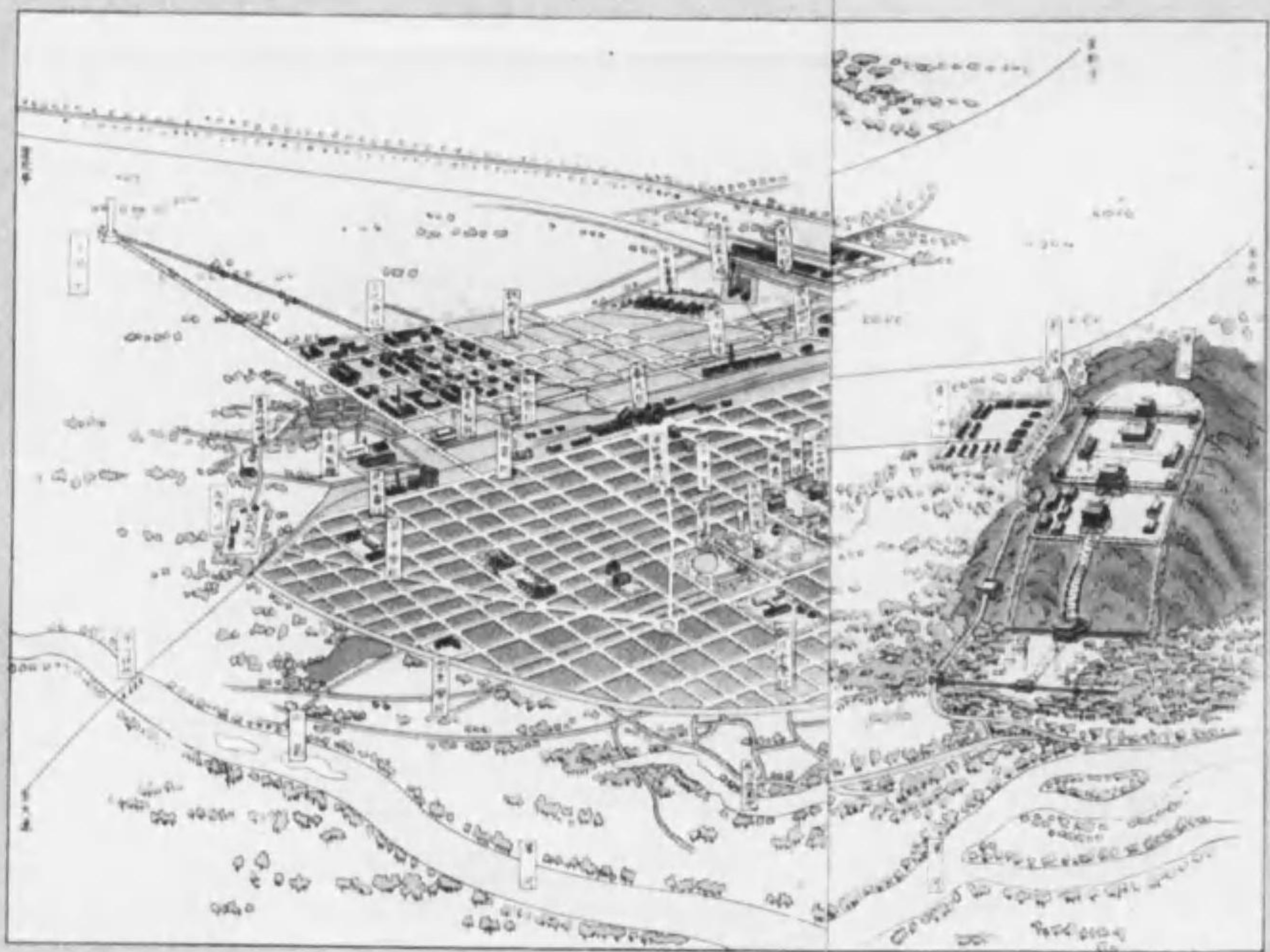
375  
632

特209

477

始





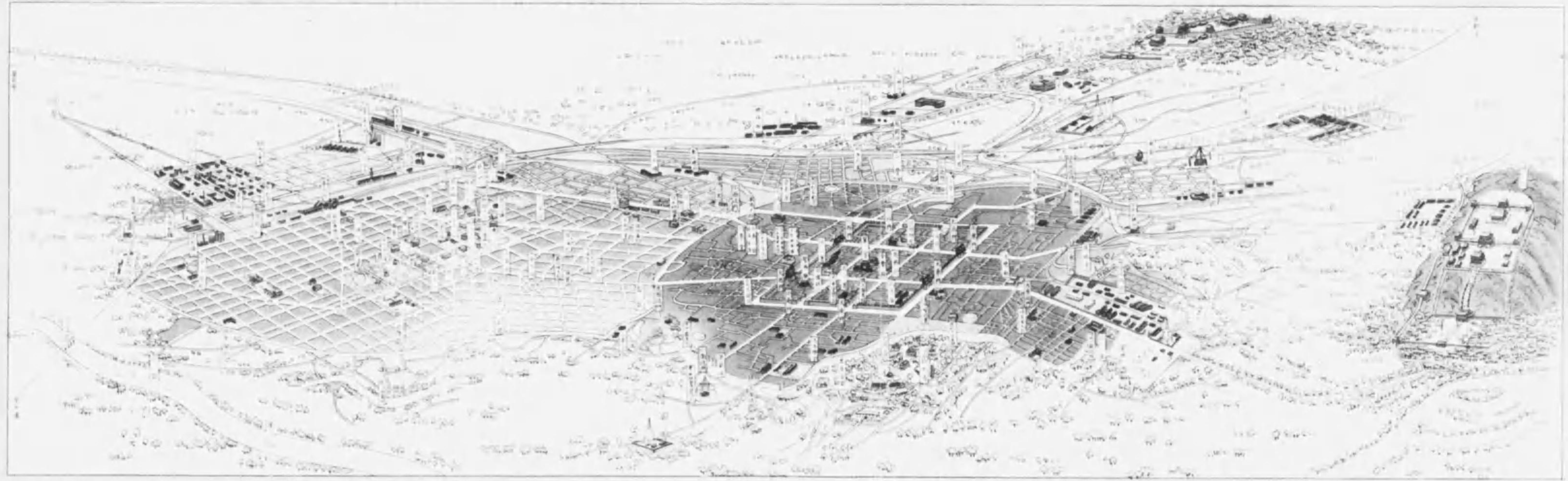
伸び行く奉天



御休息は満毛にて

▲ 空の旅案内所 一階  
▲ 旅行用品 一階  
▲ 大食堂 四階  
▲ 満洲土産品 四階  
▲ 満毛ガーデン 五階  
▲ 展望台 六階

奉天  
百貨店  
**満毛**  
特種  
—五五三— 電話



京都府京都市



(木版型) 新市場駅の客車

奉天の概念

發行所寄贈本

奉天へ!!! 奉天へ!!! 奉天は歴史の都であると共に、南滿洲の樞軸に位し經濟・交通其他總ての焦點にある奉天市街は城内、商埠地、附屬地に區分され、何れも大厦高樓櫛比し、近代滿洲文明の香り高く建設途上の躍進氣分にあふれてゐる。

更に奉天折郭には到る處皆所再踏あり、興亡うた、幾千年、一木一草悉く清神興亡の夢を結ぶ。歴史は還る幾世霜、更に想起す日・露の大戦を!!! 奉天の周圍數里にわたる日・露の競争が戦骨を晒した地である。而して二十年貴や血を得た日本の權益も東北軍閥に蹂躪され、日・露の條約も反古に終つたが、天は飽く迄彼等に與せず、遂に



九・一八事變により脆くも崩壊し、三千萬民衆の總意により新興滿洲國の誕生となつたが、奉天は實にその搖籃の地であり、發祥の地である。

北大營の草原に赤い夕陽を浴びた碑石の下には正義と希望とを三千万民衆に與へ、歴史的建國の偉業を完成せしめた幾多の英雄が安らかに眠つてゐる。



奉天大正

地誌

(一) 位置と氣候

奉天は北緯四十一度四十分、東經百二十三度二十三分にあり南滿の中心に位してゐる。

氣候は元來その地理的關係から大陸的であり、従つて寒暑の差は甚しいが、夏期は更氣すくない蒸暑し暑くなく、又冬も氣温の割合に過ぎよい。然し最近人口の密度に關係するものか雨量も多くなり、大陸的氣候の特徴たる三寒四溫も緩和され、漸次日本内地式氣候に近付き、寒暑の差も逐次縮められて行きつゝある。

(二) 市域及人口

奉天の全市域は從來附屬地八平方軒を合して僅かに六十三平方軒であつたが、本年三月十五日市行政區域の變更擴大により新に隣接十四ヶ村、面積二百七平方軒が編入された結果、奉天市域は總面積二百七平方軒となつた。人口は康德四年三月末現在の人口は戸數十三萬三千二百四十八、人口六十九萬三千七百七十人となつており人口面積其本年度より實施中の大奉天都市計畫の進捗と共に人口も逐次稠密の度を増しつゝあり、數年を出でずして人口百萬を擁する一大近代文化都市の出現を見る筈である。



奉天公署

市公署管内及附屬地の人口表

(1924年、日本国在)

市公署管内				附屬地管内			
種別	戸數	人口	種別	戸數	人口	種別	戸數
	男	女		男	女		總計
滿洲國人	17,125	32,125	日本人	1,234	2,345	外國人	123
日本人	1,234	2,345	外國人	123	234	計	18,482
外國人	123	234	計	1,357	2,579	計	35,038
計	18,482	34,704	計	1,480	2,813	計	36,521

市街

城内は奉天市の中心をなすものにして、市街は方形の内城とこれを閉む不整形圓形の邊城より成り、今日邊城の城壁はとりつぶされ、内城のみが僅かに當時の文化の片鱗を止めてゐる。

内城々處は今より約三百有餘年前太祖帝の創建にかゝり高さ三丈五尺、幅一丈八尺の煉瓦壁で周圍約六軒、東西南北各大小二門あり、道路は各門を通ずるものを主要大街とし、略棋盤形である。

奉天城の中心には故宮(清朝初期の皇居)があり、奉天市公署、省公署、第一軍



奉天市内の街景

商埠地

明治三十八年日、支條約第一條に據り、各國人の居留地として支那側が開放した地域で、城内と附屬地の中間に介在し、日本總領事館始め列國の領事館があり、從來大官連の居住區になつてゐたのがあつたが、治外法權の撤廢、附屬地行政權の委譲及市域擴大並



奉天遊覽案内



畜牧

近代機械化工業の集中となり躍進振りは實に目覚ましいものがある。康徳四年三月末現在の奉天工業の躍進状況を一瞥すれば左の如くである。

工業部

工場数	1,150
投資額	1,500,000,000
生産額	2,500,000,000
輸出額	1,000,000,000
輸入額	500,000,000
貿易差	500,000,000

商業及貿易

奉天はその地理的關係から全滿中央市場としての地位にあり、奉天が廣大なる背後地を擁し、如何に發展活潑しつゝあるかは左記數字に明かなる所である。而して對外貿易額の上たるものは輸出出棉糸布、煙草、特産の順にして輸入は綿糸、毛織物、雜貨の順である。次に民國十九年以降康徳二年度迄過去六ヶ年間の輸移出入貿易額を掲ぐれば左の如くである。

貿易額 (單位千圓)

項目	民國十九年	民國二十年	大同元年
輸出	1,200,000	1,500,000	1,800,000
輸入	800,000	1,000,000	1,200,000
貿易差	400,000	500,000	600,000



東

大天宮天皇の御代に北陵

奉天神社

**忠靈塔** 忠靈塔は市内千代田通にあり、過ぐる日、露の役奉天大會戰以來滿洲事變の戦歿將士合せて三萬五千の英靈が祀られてゐる。

**奉天神社** 奉天神社は春日公園の東に接し、境内には樹木繁り自から神々しさを覺える。此處には天照大神、明治大帝の御二柱が合祀されており、春秋二回盛大な社祭が舉行される。

**北陵** 北陵は奉天城内の西北約一里半の地に在り、陵城の規模は頗る宏大で、周圍約十五町に亘る塙壁を築らし、正門入口には大碑樓あり、これを這入つて前面朱壁黃瓦の碑閣に至る。碑道の兩側に馬・象・駱駝・豹・唐獅子等の石像が並んでゐる。園内には巨大な大理石の石碑があり、康熙帝の撰にかゝる碑文が彫付けられてゐる。碑閣の後は三層樓門で隆恩門と稱する。同門を過ぎ隆恩殿の後に寢殿あり興亡の歴史を外に太宗文皇帝が永遠の眠を續けてゐる。

本陵は一名昭陵とも言ひ今を去る約二百七十年前の造營にして、境内老松鬱蒼とし周圍二里風光清絶、近くは日・露の役に我日本軍一個聯隊激戦の地として北陵北西三台子の畑中には當時をしのぶ戦蹟碑がある。

石馬彫刻の風  
白田 小説  
全  
白田 小説  
石馬彫刻の風  
白田 小説  
全  
白田 小説

**東陵** 東陵は別名を福陵と言ふ。奉天省城内東約二里奉・撫街道に沿ふた丘上にある。

天聰三年（一六二九年）太祖高皇帝（清朝第一世努爾哈齊）を此丘に祀り、同八年寢殿を設け金丘老松積翠、朱壁黃瓦參差として修え、寢に幽遷の廟がある。門内には唐獅子・駱駝・象・豹等の石像を配置し、康熙帝の聖徳神功の碑あり、滿洲三陵中隨一の眺望を有し、北陵と共に奉天觀光客の必ず参詣するところである。





宮 故

故宮 奉天城は清の太宗及太祖の宮居した處で天命十年（一六二五年）太祖高皇帝が遼陽から遷都して以來順治元年北京に遷る十九年間の居城で宮殿は金鑾殿と稱し崇德二年（一六三七年）太宗の造營せるものである。東西五十五間、南北百四十八間の總壁で閉まれ、その境域は大内宮闕大成殿、文淵閣に分れてゐる。正門たる大清門を入れば大内宮闕の一廊で文武大官の居所であつた飛龍舞鳳の兩閣を左右に、正面には皇帝が政を聴いた儀政殿があり華かたりし清朝のおもかけを彷彿たらしめてゐる。



(北塔) 寺 輪 法

法輪寺は奉天大北門外に在り、清朝勅建の廟で、東西南北の護國寺塔と言ふ都城鎮護のツマ塔の一で、寺内は彫鑿寂靜相を表現せる天地位佛を祀り、グロテスクな像があるので有名である。

大清宮 奉天城西北電車交通の地にあり道教寺廟として有名である。教派は三十七宗十二派に分れてゐる。



宮 清 大



寺 林 珠

珠林寺 奉天小東邊門外に在り、同善堂の一事業として雲龍の保管を爲してゐる。

同善堂保管所には郭松齡夫妻、張作霖及張學良の息子等の人々を畫かす所謂吳越同舟の形で取つてゐたが、張作霖の妻は康徳四年六月一日昭和帝主催の下に盛大な超渡式が行はれた。珠林より身を起し遙洲を塵塵した一代の風雲兒作霖の墓も、今は極堂殿に夫人の眠る墓地、錦州豐滿山麓に葬られ安らかた永渡の眠りについた。

國立圖書館 (大東國大馬路南) 國立圖書館には奉天城内の文獻、貴重書及前清時代の圖書が蒐集保管されて居り、更に大同元年九月東洋文庫の譯ともふべき文淵閣の四庫全書が同館に保管され、尙現在保管圖書は四庫全書二萬六千三百十八冊を筆頭に合計八座七千七百一冊である。

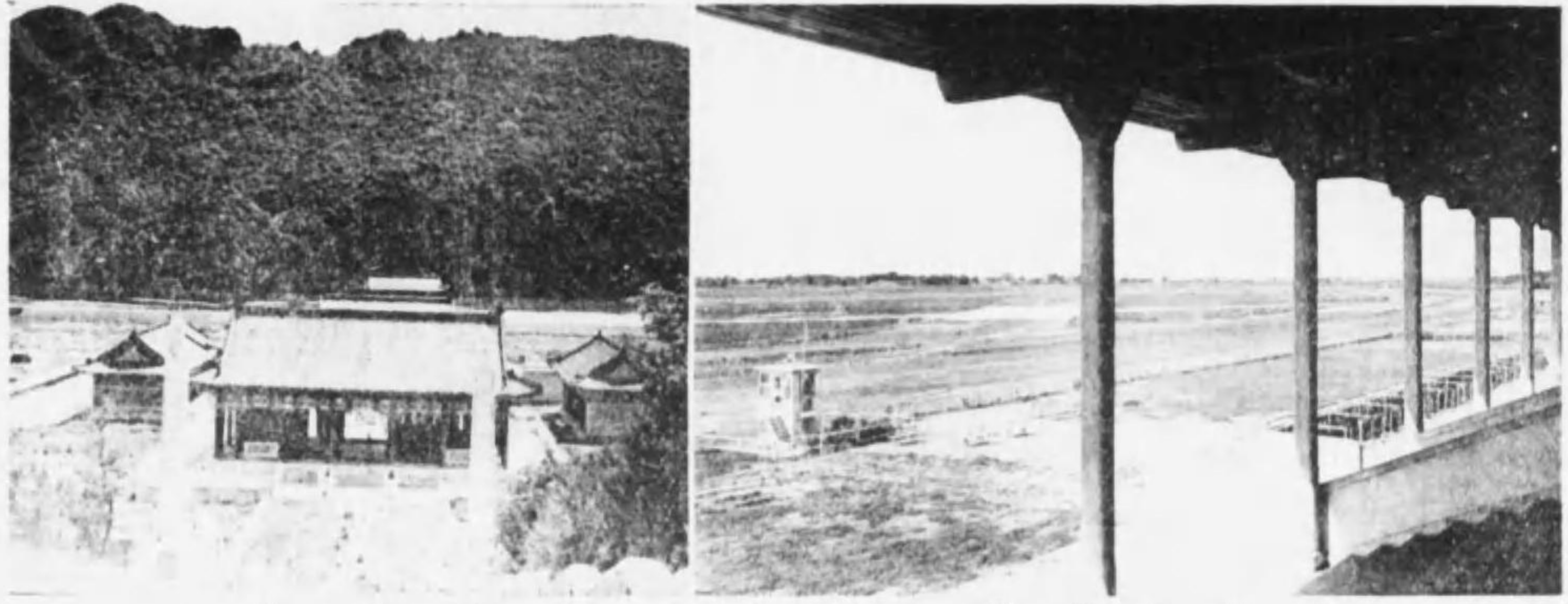
國立博物館 (油庫地九路) 清宮博物院を改修して設置されたもので、東洋文化の殿堂とも言ふべき古代の美術工藝品數千點及清朝時代の單品が多數保管されており、一覽して厭かたりし當時がしのばれる。



館 博 立 國



館 書 立 國



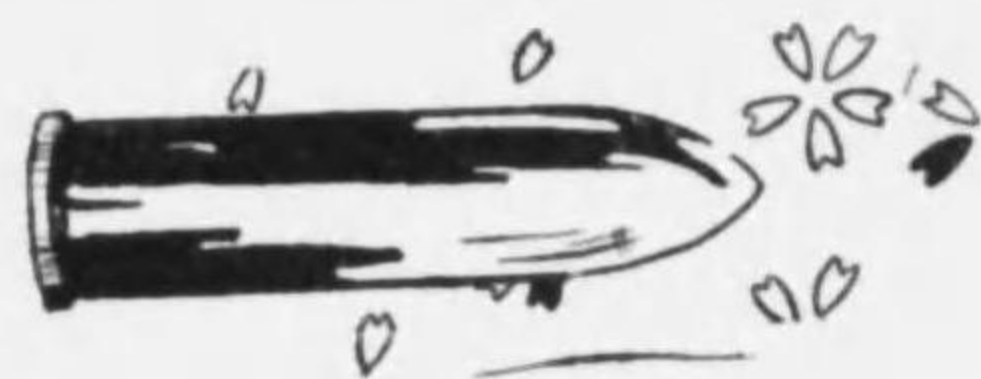
北の競馬場 源氏流

北陵競馬は全滿競馬フアンの人気を独占してゐる北陵国立競馬は康徳元年賽馬法の規定に準據して北陵南側に設立されたものであるが、無制限賽馬の魅力物産く過去三年の馬券及び抽彩票(ガラ)の賣上總額は八百七十三萬四千圓と云ふ好成绩で春の二回、一回七日間、秋の三回、一回七日間二期に開かれる競馬には全滿フアンを二場にあつめ悲喜交々の競馬場風景を展開してゐる。

なほ馬券は單式五圓、複式拾圓、抽彩票一圓である。

元帥林は一代の風雲児張作霖の陵墓として有名な所である。陵は水龍臥と稱せられる丘上に設けられ、對岸鐵龍山の懸崖に臨み渾河の清流を控へてゐる陵墓は、工事七、八分通り完成した所にて滿洲事變に遭ひしたためそのまゝ放置されてゐるが、張學良が工事費百五十萬圓を以て着工した工事だけに豪華を極め牆壁、石階、人像、雕像等は全部大理石である。又元帥林の前驛營盤の東にある登龍山は胡浩が興亡を睹して戦つたサルオの戦の戦蹟である。

## 奉天附近の戦蹟巡り



英 國 忠 心 塔

奉 天 城

明治三十九年三月十日世界戦史を飾

る奉天大會戦は暮色やうやく迫る午後五時頃、第四師團歩兵第三十七聯隊第二大隊は河村大隊長以下破竹の勢ひを以て逃ぐる敵を追ひ大西門より奉天城に一番乗りを敢行し城頭高く日章旗をひるがへしたが、數千の露軍は城内各戸に潜入しありてこのまゝ放置するに於ては由緒ある奉天城は敗殘兵のため一夜にして灰燼に歸せしめられる事は明かとなつたので、大隊長自ら危険を目して當時の清國奉天將軍曾祺と計り城内



奉天附近は今を去る三十有餘年前、即ち明治三十七八年日本帝國が祖國の興廢を賭して大國露西亞に對戦した日・露戦役の地であるだけに、至る處に當時の激戦を物語る幾多の戦蹟碑が廣漠たる原野の中に赤い夕陽を浴びて聳えてゐるのが見受けられる。奉天を觀光される人は躍進の奉天を見られると共に、これ等戦蹟碑の前にぬかずきしばし冥黙當時を回想されるもあなたがち無駄でないと思ふ。奉天附近戦蹟の重なるものを略記すれば左の如くである。

外敗殘兵の

掃蕩を聞き、捕虜一

千三百餘を逮捕し遂に奉天

城を戦禍より救ふ事を得たが、河

村大隊長の右の處置がなかつたならば當

然奉天全市は焦土と化し現在の奉天市はその面

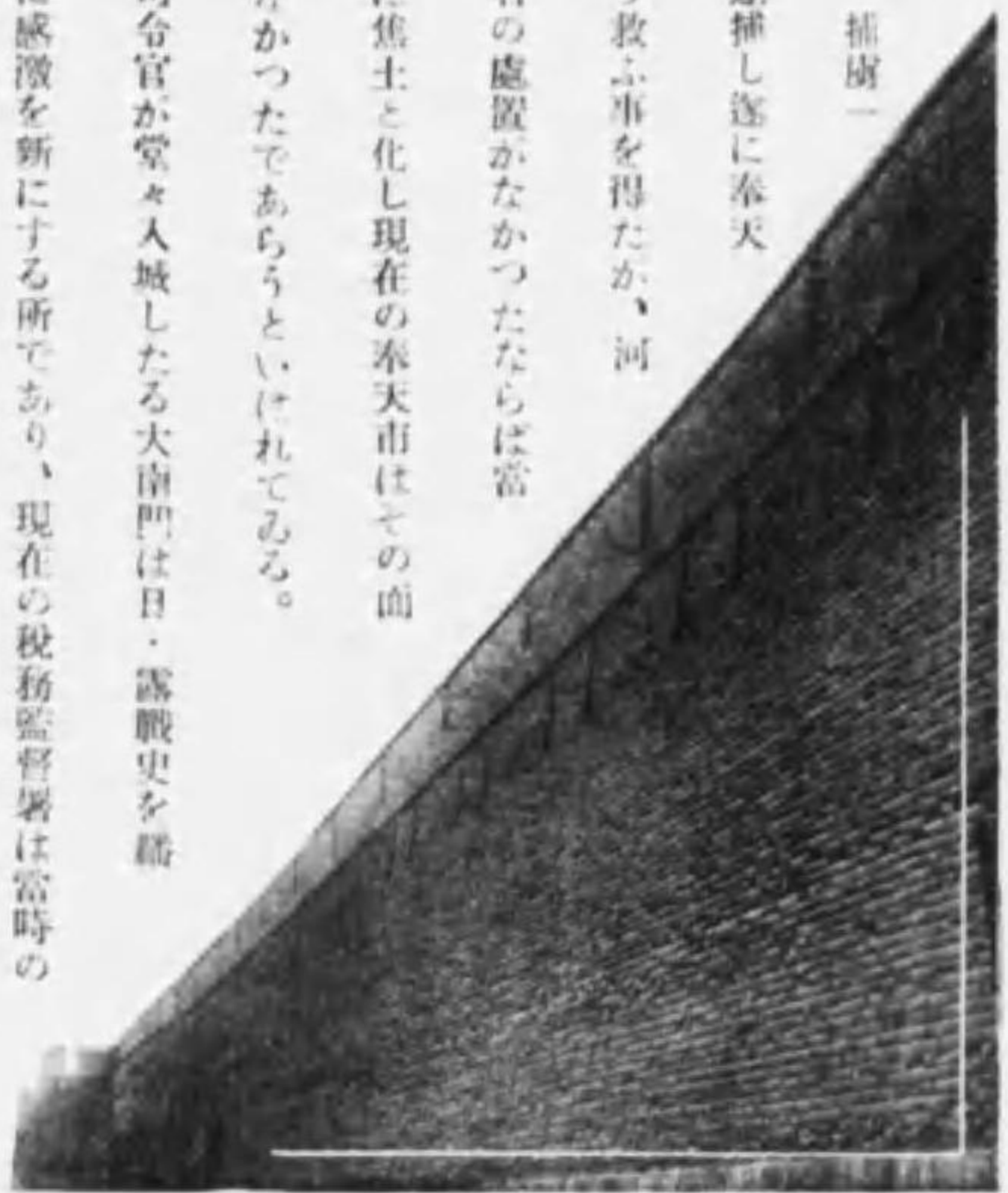
影を留め得なかつたであらうといはれてゐる。

かの大山總司令官が堂々入城したる大南門は日・露戦史を識

くものに更に感激を新にする所であり、現在の稅務監督署は當時の

司令部が駐留された思ひ出の所で三十餘年の今日には當時を追想せしめる記念品

が裏庭に残されてゐる。



大南門

大南門は日・露の大戦に於て大山大將を總司令官とする日本軍が奉天を最後と

死守する露軍數十萬と激戦を交

へ明治三十八年三月十日これを

撃破して軍旗を先鋒に威風堂々

奉天城に乗り込んだ由縁深い關

門であるが、今はいとも平和に

車馬絡繹、名所遊覽自動車等で

須臾の中を通り過ぎ轉た今昔の

感に堪へず。歴史の變遷は實に



大南門

興味深いものがある。

李官堡、干洪屯 (奉天西方二里許)

三月七日より八日に亘る第三師團南部旅團の激戦の

跡である。此の方面は露軍が攻勢に出た爲め第二軍

は非常な苦戦に陥り多大の犠牲を拂つた所である。

吉岡聯隊長の率ゆる歩兵第三十三聯隊は干洪屯南方

三軒茶屋より、竹内聯隊長の率ゆる歩兵第六聯隊



第三十三聯隊戦跡記念塔

は干洪屯正面より七

日拂曉を期し一齊に

攻撃に移り各目的の

の占領に成功した

間もなく敵の大逆襲

を受けて激奮敵せず

吉岡聯隊長は壯烈なる戦死  
を遂げ第三十三聯隊は全滅  
し、第六聯隊は竹内聯隊長  
初め將校以下の戦死傷者二  
千數百の多きに達し、餘る者  
僅かに三百、全滅に瀕した



皆様の  
七福屋百貨店



カノラ  
デパート  
大連 新大連 哈爾濱  
青島 濟南 煙台  
天津 北京 上海  
香港 廣州 汕頭  
長沙 重慶 成都  
西安 蘭州 西寧  
昆明 貴陽 蘭州  
成都 重慶 西安  
西安 蘭州 西寧  
昆明 貴陽 蘭州

滿洲各地の  
K.M.R. 4-2  
木村洋行  
總代理 鐵道運輸



六 第六師團戦蹟記念碑

が負傷者も銃を執り奮戦苦闘克く  
占領地を死守し奉天大会戦の勝因  
を作つた所で、一日に消費した小  
銃弾二十六萬といはれ如何に激戦  
したか想像に難くない。爾來三十  
有餘年三軒屋は朽ち果て原形を止  
めないが、三軒家には吉岡聯隊長  
以下の記念碑が又于洪屯には竹内  
聯隊長以下の記念碑が空高く聳え

赫々たる武勳を語り強者共の夢の跡たる感じが深い。

『大越中佐自刃の地』

第二大隊長大越中佐は聯隊長の  
命に依り後方連絡絶たれ、幾渡傳  
令を派するも途中總て斃れ杳とし  
て消息相通せざるに依り、右腕の  
負傷にも屈せず重要連絡の爲め彈  
丸飛雨の中を疾驅するに不幸にし  
て『自刃の地記念碑』腹部に重  
傷を負ひ、再び立つ能はざるを知  
るや悲壯なる遺書を認め重要書



大越中佐自刃の場所

類を焼却近傍の負傷者に後事を託し自刃  
した處である。

北 陵 『奉天宮ニリ回二里』

清の太宗文皇帝の陵墓として有名なる所  
であるが又日・露戦役の戦蹟地である事



北 陵の松林

を得たが敢然夜襲を決行し以て日本男子の意氣を見  
せんすとの議起り、歩兵第二十八聯隊長村上大佐は  
約三個大隊と工兵十六名を率ひ三月十日午前五時四  
十分敵陣地に突入して敵の心臓を塞がらしめ大いに  
動搖を興へたが、間もなく敵の大逆襲を受けて克く  
防戦し最後に陸隊内を死守し孤軍奮戦苦闘の地であ  
る。爾々老松を渡る風は三十餘年の星霜をよそに變  
る所なく一層感慨無量なるものがあるが、現在の北  
陵は奉天市民の單なる遊園地とされてあり、かの南



吉 州 綏 房 百 貨 店

を忘れてはならない。鐵血山を覆ふた  
二〇三高地を占領して勇名を天下に  
馳せた北海道の齊藤旅團が果敢なる夜  
襲に依り占領したる所である。三月九  
日風塵を利用して敵前數百米迄迫つた  
齊藤旅團は、戦況不利のため夜に入る

時 空 行 洋 森

石 計 機 庫 眞 滿 洲 土 産

天 香

寄 尔 哈 · 津 天 · 新 京 · 南 支



碑之記戦軍隊四二一四

北朝時代の音を響ぶ「歌  
書よりも軍書に悲し吉野  
山」の感を深くするもの  
がある。

**受降ヶ丘**

(奉天の東北(軍中)  
二台子(北の高地))

奉天の北方鐵道街直に

沿つて北行すれば、丘の麓に規模宏大なる關帝廟がありその東側丘上に記念碑の  
ある所がそれである。

三月八日以来遼瀋の如く北へ北へと退却する敵の大集團は第六師團を初め各師  
團の急追撃に其の退路を遮断せられて敵は鼠となり死物狂ひの大混戦を展開  
し二台子・魚鱗堡・奉天東北端附近は名狀すべからざる一大殺戮場と化したのであ  
る。混戦状態は十日の午後より十一日の朝に至る間其の極に達した。拂曉に及ん  
で烟と云はず丘  
と云はず累々と  
積たわる彼我の  
死傷者の中に兩  
軍の小部隊は疲  
勞困憊の極戦ふ  
事も忘れ且茫然  
たる有様であつ



堀江聯隊長戦死之碑

たと云ふ。

屍山血河の戦場に戦敗れた敵兵は白旗  
を樹て、降伏するもの多く此の附近一帯  
より得たる捕虜の数は一萬人以上で國獲  
品軍旗一旗、火砲三十餘門で日・露戦役  
中の最大記録であつた。

第六師團長は此の未曾有の大激戦の跡  
を永久に記念すべく碑を二台子に建設し  
て受降ヶ丘と號せられたのである。現在  
の碑房は明治四十二年奉天在留日本人の  
醸金に依り建造されたのである。



**沙埤子** 奉天の南渾河の鐵橋より西に二里高壁畑にかこまれた部落一帯が即ちそれである。

沙埤子・甘官屯・楊子屯と此の一帯は第  
五師團が三月四日より攻撃準備に移り越  
えて五日より十日に至る五日間は續々と  
加はる敵の守備兵を向ふに射し、砲彈彈  
雨の中に惡戦苦闘を反復し多大の犠牲を  
拂つたが、漸く第四師團の増援を受けて  
八日に英家堡を占領し、更に九日突撃又  
突撃遂に十日拂曉敵の軍營沙埤子を占領  
した。此の間我兵の戦死傷者は續出始ん  
ど全滅に瀕したが終始激戦陣子奮迅、特  
に歩兵第四十二聯隊長堀江中佐の壯烈な  
る戦死は武人の魁鑑と誦はれて居る。

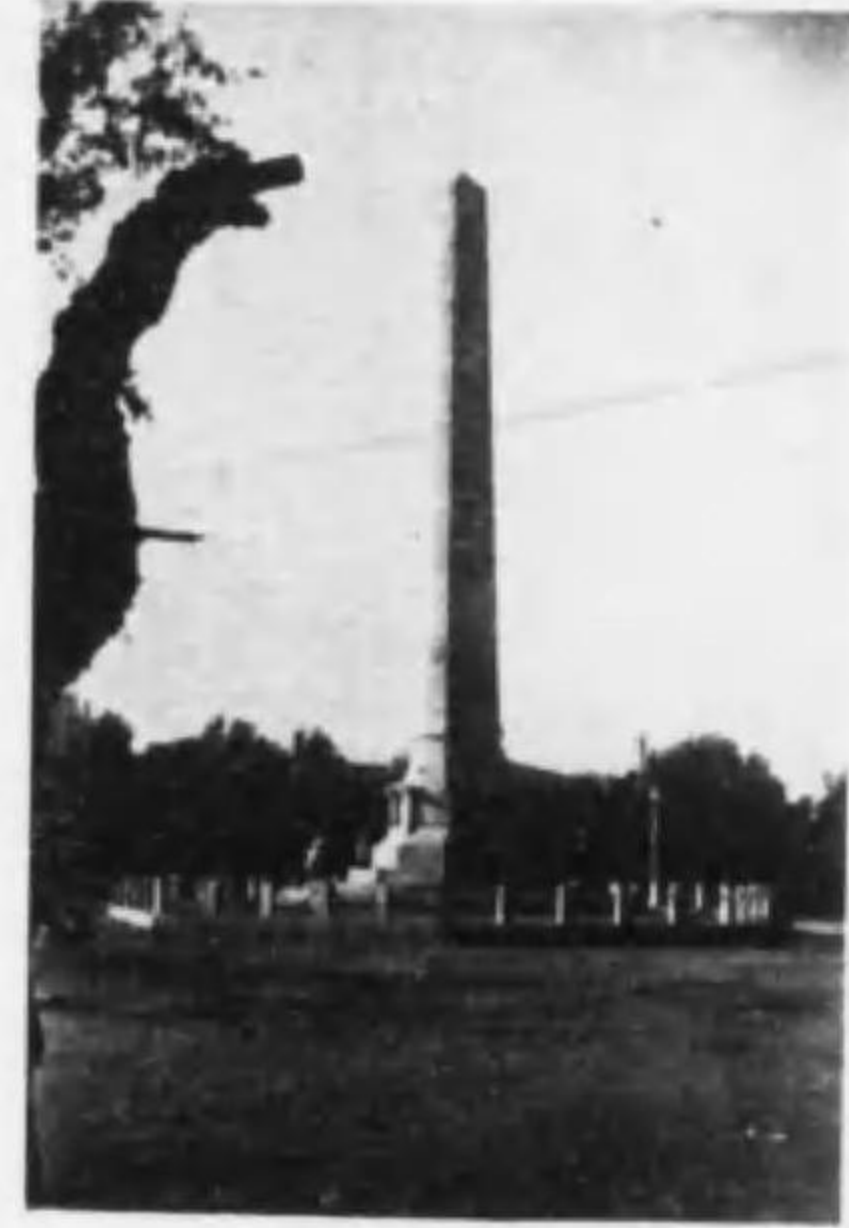
爾來三十有餘年星移り年變り山行けば



沙埤子

草むす屍我が忠勇なる幾多の皇軍戦士の英霊は永久に此の地を護るであらふ。

萬寶山 吳家屯の南方十八町の地上に在り、奉天會戰に當り大久保枝隊及第六師團は主力を萬寶山附近に集結して三十八年二月二十七日攻堅を開始し、七晝夜に亘り敵の重圍中に全滅を覚悟し、よく苦戦遂にこの重圍より脱し四散せしめたが、この戦場に於て歩兵第四十聯隊鶴澤總司令大佐外將校二十九名、下士以下八百十二名の戦死者を出した大激戦の跡で、大正元年十月記念碑が建立された。又露西亞側に於ても同地に記念碑を立てた處であり如何に大激戦が展開されたかと現はれる。



日露戰役記念碑

三台子 文官屯驛西方十町の所にあり滿洲軍右翼の第三軍は、司令官乃木大將麾下の下に第一、第七、第九師團及歩兵第十五旅團、騎兵第二旅團、野戰砲兵第二旅團は三十八年二月二十七日午前五時寒風身も凍る氷雪をついて遼陽の西方より發し、三月一日大河附近に於て敵の左側背を突くべく遼を東方に轉じ、翌二日舊渾河堤防附近に達するや戦線を東方に轉じ、九日轉濟南より八家子・三台子・田義屯を経て郭三屯に亘る第一線に達するや、我第一、第九師團は猛烈なる敵の逆襲を受け、善戦よくこれを支持し、翌十日先づ第九師團暗夜に乗じて敵の背後をつき、激戦久しくしてこれを撃退遂に日本軍の勝因をつくつたもので、日・露戦役の關ヶ原とも稱すべき大激戦であつた。大正五年十月陸軍大將子爵大迫敏氏の碑文に成る記念碑が建立された。

北大營 曾つて張學良麾下王以哲の精銳が駐屯してゐた所で、昭和六年九月十八日柳條湖鐵道爆破と共に我獨立守備隊のため撃破され、遂に滿洲事變の導火線となり、實に滿洲建國聖業の發祥地であり滿洲事變史の一頁を飾るところであり、柳條湖と共にあまりにも有名なる所である。

民 謡 集







起廟(廟詣り)

四月十有八日は

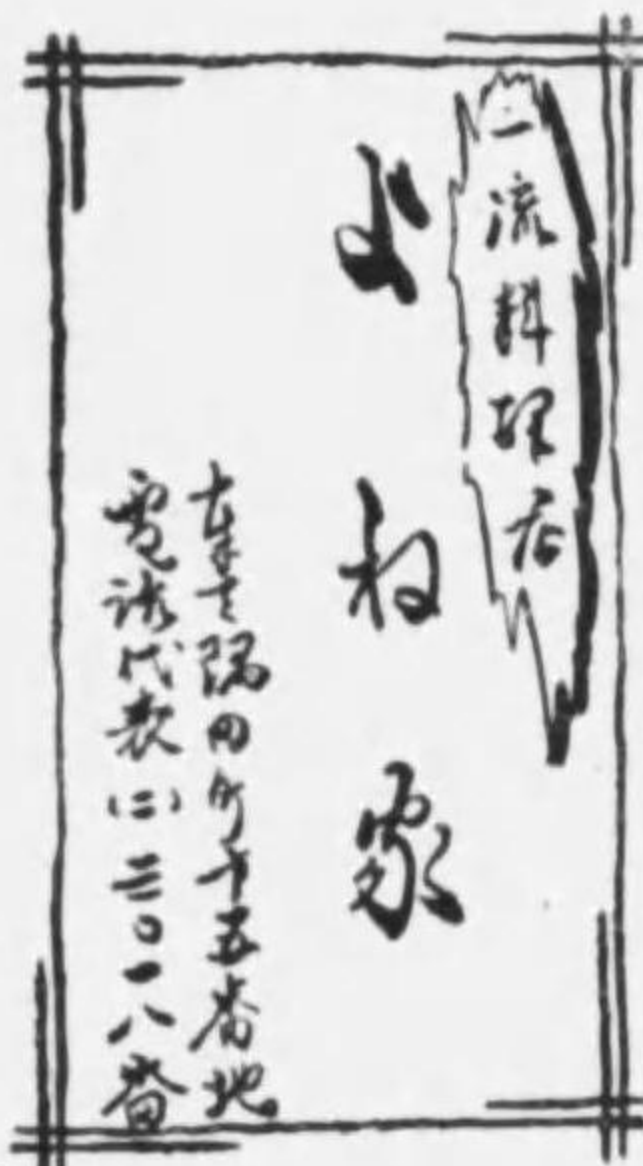
娘々様のお祭りよ

一家揃つて香を焚く

子供授かるその爲に

寡婦のわたしが香を焚く

いつたい何のためによら



◇ 註 ◇

「娘々」は道教での代表神ともいふべく民衆に人氣のある神様。その三體の女神は授兒、安産、治眼を司るとされてゐる。滿洲の方々に廟があつて四月十八日にはその祭典が行はれるが子供を授かりたいと願ふもの、祈願情緒がこの祭典の時など實に如實にうかゞへる。

### 槐樹底下

アカシヤ樹の下芝居小屋

三姐さん呼んで聴きに來た

ねえさん泣き泣きやつて來る

ねえさんどうして泣くんです？

わたしの夫にやほんとに困る

買ひ喰ひマーチヤンまだいいけれど

丁半遊びにややりきれぬ



#### ◇註◇

支那の芝居は歌ふのが主に  
なつてゐるので芝居を聴く  
といふ。



### 兩老婆

南山頂上草一本(序語)

人は二人の妻持つな

持つたら最後夜も晝も

ギヤアギヤア喧嘩の絶間ない

第一號を打たふとしても

あれは古參で打たれない

第二の方を打たふとすれば

おめかし飾つて甘たれる

そこで二人を一緒に打てば

家中の子供が泣き騒ぐ

二人どちらも打たずにゐれば

甘い亭主と近所が笑ふ

#### ◇註◇

これは多妻を持つ勿れといまし  
めてはゐるが、それが深い人生  
觀から發したものでない事は  
ふまでもない。



活版 高眞版  
石版 オフセット  
クラビエ 製本二般

興亞印刷有限公司

本社 東京豊島区西池袋二丁目二番九号  
支店 大阪東区大馬路二丁目二番九号

石榴花開

火のやうに紅い石榴が咲いた  
人は二人の妻とるな  
第一が紅い錦入着れば  
第二の方は緑の緞子  
冷しうどんを一方が望みや  
一方は蒸饅頭食べたがる

◇ 註 ◇

妻を複数に持つてみると、そのお互  
が衣食の嗜好がちがつてゐて、生活  
が不経済で面倒であることを歌ひ込  
んで、多妻を持つ勿れといました  
ものである。



賊官

收賄役人ほんとしずるい  
お金を取つてお米は取らぬ  
お金は始末がつきやすい  
お米を取つたら背負ひきれぬ

◇ 註 ◇

三年間田舎の縣知事をやれば一生寝  
てゐて食へると言はれる位に役人達  
は賄路で肥つたものだつた。  
この歌はさういふ役人を皮肉つてゐ  
る。



長城

秦の始皇が築いた長城！  
城壁が低う、通路が狭く  
韃靼の侵入防ぎはしたが  
その後いとしや一人の夫方  
千里の果から背の君尋ねて  
城壁の前でしくしくお泣きだ  
「おてんと様」と一聲高く！  
怨みの涙にあはれ長城の一角  
崩れ落ちた



纏足

纏足よ纏足

纏足しては困るだろ

小さな足では

仕事が出来ぬ

足先痛くて

只泣くばかり

びっこりしやつっこり歩いて行つて

男のからだに縋つて暮す



望一望(あたりを見れば)

高い山からあたりを見れば

お山の下に一本槐樹

槐樹の蔭に舞台があつて

早くやれよと催促すれば

金持ち旦那がまだ見えぬ

◇ 註 ◇



村々居の様子をうたつた歌である。

# 奉天遊覽バス

新興奉天、史蹟奉天をタツタ  
 一日で愉快に御観光なさるには  
 奉天遊覽バスに限る

時間 午前十時發 午後五時歸着  
 料金 御一名 貳圓五十錢  
 小學生以下御一名 壹圓五十錢



奉天千代田通第一番地  
 奉天交通公司營業所

電話 ③ 三五八三番  
 七六六一番

街圖

375  
 632

